

子どもと暮らし研究会 A3 回目

令和 3 年 11 月 13 日

岐阜宇聖徳学園大学 松本信吾氏「子どものセンスオブワンダーを受け止める」

今年度は松本氏の研修を経てそれを反映させた研修を行うというスタイルで行いました。
今まで何となく感じていた園の保育環境などの問題、個人の保育の問題などを改めて見直す場となり、
新たな視点が持てたり、自分の保育のあり方を再考できたりする場となりました。

前回の研修後を経て

研修者の方には自園の問題点や改善策を
レポートしていただきました。

- ・みなさんのまとめを見ながら「子ども主語」の書き方が多いと感じました。
子ども目線で寄り添っていく姿勢はとても大事ですね。
ふと思ったことですが、指導案を書くときには目的を持ちますし
行事もねらいを持って行事を計画することと思います。
結果やゴールを設定すると、つつい子どもたちに目的を与えがちな保育になることがあります。
「させなければ」「やらなければ」が優先しすぎて本来の保育を忘れないように気をつけましょうね。
- ・大人は「役に立つ・意味がある」という視点で物事を見がちですが子どもたちは違います。
例えばドングリ拾いに出かけると大人は「ドングリを拾う」ことが主体になりがちで
他の自然物に目が行かなくなったりします。
しかし子どもたちは他の自然物にも興味関心があるので触れたり観察しようとしたりします。
そういった子どもの興味関心を大人の視点や都合で潰さない保育ができると素晴らしいですよ。
- ・人間は視覚から多くの情報を得ています。さらに大人は今までに得た情報が結びついているので
改めて「虫の感触」「砂のザラザラした感触」を再確認してみようとはなかなか思いません。
さらに「汚れると嫌だ」という情報も含まれていることでしょう。
ですが改めて視覚以外の感覚を使った保育をぜひ行ってほしいと思います。
子どもたちと同じように五感を使って自然を楽しむと大人にも再発見があると思います。
それを子どもたちと一緒に楽しんでください。
- ・自然遊びの中ではどちらかというと目的を持たない保育になることが多いと思います。
ですが自分を解放させてばかりの保育というのは何か違いますよね。
目的のある保育、子どもが自分を解放できる保育のバランスに気をつけてほしいと思います。

今年度の研修を通して

3つの園を訪問させていただきました。

- ・園庭の環境に関わらず、子どもたちが安心できる環境作りがとても大事だと思います。
落ち着ける場所でじっくり腰を据えて遊ぶからこそ遊びは深まっていったり広がっていったりします。
その為に私たちは安全を確保したり、
遊び深めることができる道具を用意したりすることが大切ですね。
例えば、グラウンドみたいな何もない園庭よりも
ちょっと雑草が生えていれば遊びが広がることは皆さんなら分かると思います。
そういった遊びの可能性を増やすことが大事だと思います。
- ・私は自然の量よりも、子どもたちがいつも自然に触れられる時間の方が重要だと思います。
もし園に自然が無いというなら雑草を生やせる環境を作ってみてください。
それだけで虫が来ますし、子どもたちが命に触れる機会が増えます。
- ・自然物を好きに取っていい園、制限を設けている園と様々だと思います。
子どもたちもルールを設ければ理解するでしょうが、
「〇〇君が年長さんの育てている野菜をとっちゃった」なんてこともあるかもしれません。
でも、問題に対して向き合う機会が増えたと考えてみましょう。
「怒れる」「悔しい」「ごめんなさい」「どうすればいいかな？」と
子どもたちが感じる経験も必要ですよ。
- ・園庭の掃除も遊びの環境作りという面ではしっかり行わなくていい部分もあると思います。
あと、施設の下といった危険そうな場所に子どもたちが入らないようにすることが多いと思いますが、
鉄骨にカバーをするなどの一工夫をして安全を確保できるのなら
遊びの場として提供しても楽しいかもしれませんね。
- ・砂場みたいな子どもが自ずと集まる大きな拠点があるといいと思います。
また机やイスといった環境があればごっこ遊びが始まったり、
休憩する子どもたちの関わりの場になると思います。
ただただ広だけ園庭よりも拠点があることで関わりが増えて遊びも自然発生しやすいと思います。
もちろん、たくさんあればいいわけではありません。
園児数や園庭環境に合わせて子どもたちが関われる場や道具の数を設定してください。
- ・保育者が自分の感情を発信することも大事なことです。
自然物をよく観察すれば小さいながらも毎日、毎時間変化をしている物もあります。
その変化に保育者が気づいて「先生が見つけたんだよ！」と自慢する保育も素敵だと思います。
「先生が楽しい」という思いは子どもたちにも伝染しますから、
保育者から「楽しい」「教えたい」を発信することはとても大事なことだと思います。
また、その気づきを保育者間で共有すれば園児全体にも広がることでしょう。

- ・子どもに共感することはとても大事なことです、改めて子どもとの接し方を見直すことも必要です。子どもたちの気づきに反応するだけでなく、可能であれば一緒に触ってみるとか嗅いでみるとか同じ目線にしゃがむとか。言葉だけのやり取りではない、体で共感しに行く姿勢を忘れていないか今一度確認してみてください。

自然の意味と

AI化した社会について

- ・自然が全て人工物に優っているとは思っていません。
絵本や積木にだって子どもの育ちにとって大事なことが含まれていますし、それらの方が成長できる子どもだっているはず。
自然で遊ぶよりも体操教室みたいな専門家の元で行った方が有効なのかもしれませんね。
私が自然の中で学ぶことができる一番大事なことは「畏敬の念」に触れられることだと思います。
今の社会では「自然物との関わり」「命の尊さ」を子どもたちが実感できる機会があまり多くありません。
また「命との別れ」は一度体験すれば身に着くというものでもありませんから、草木や虫といった短い命に触れて別れを知る経験を積むことで、命の尊さを自分の物とできるのではないかと思います。
それは自然物にしかできないことだと思いますし経験しなくてはいけないことだと思います。
- ・快適を求めてばかりの社会に、きっと皆さんも心の奥で疑問を持っていると私は思っています。
例えばコンビニには何でもありますトイレもありますし、私たちのニーズに応じてくれます。
ですが心のどこかで「これは最適ではない」と思っていないですか？
コンビニで買った野菜と、自分が畑で採ってその場で食べる野菜のどちらが美味しいかは歴然です。
ただ、そういった人工の利便性と自然ならではの特別さ、お互いが存在するからこそお互いの長所短所が見えるのも確かだと思います。
どちらにも良い部分があり、反対の物を知ることで好きな物の良さを再確認できることもあります。
- ・自然を愛すると「自然>人間」という感覚になりますが、今の社会は「自然<人間」という構図になっています。
大人は概念で「役立つかどうか」を必要としますが、それらを持ち込まない保育をすることが大事だと思います。
時間を忘れて自然遊びを楽しんだことがきっとあると思います。
「自然界で生きることが本来のあり方」という人間本来の感覚も大事にしてほしいと思います。
- ・人間の心もどんどん機械化していていると思います。
ネットやSNSでは実際に会って話すときの「嬉しくてもっと話したい」「気まずいから黙る」といった空気を感じられませんし、そもそも相手の本意をなかなか汲み取りにくいです。
人と人との関わりが減っている現代で、保育者は「人を育てる」とはどういうことかを改めて考えてほしくしてほしいと思います。

研修者の感想

- ・本研修を受ける中で、改めて自然へ目を向ければたくさんの気づきがあることを知った。
よく見ないと分からないことがいっぱいだが、それらに気づこうという意識を持つことが大事。
虫が苦手なのだが、子どもたちへどういったアプローチすればいいかを考えることができた。
- ・経験年数が若い保育者だと自然に対する興味の関心、視野が狭いことが多い。
若い保育者へ向けて自然遊びの良さを知ってもらうことも必要だと感じた。
- ・活動として自然遊びをする場合はクラスの園児数によってはできる・できないがあるかもしれない。
自園に当てはめると自由遊びに取り入れてできると思った。
- ・今まで子どもに「何かをさせる」保育をしていたかもしれない。
研修を経て「子どもの気づきを一緒に楽しむ」ように意識した。
こちらから発信はしないことで、子どもの発見や気づきが増えて子どもと共感できる機会が増えた。
- ・いつもだったら逃がそうと促す蝶々の幼虫を飼育してみたら成虫になった。
一度みんなで絵を描く機会を設けたら具体的に観察したり意欲的に図鑑を調べてみたりするようになった。

園庭に植えるなら

お勧めの草花を研修者のみなさんに聞いてみました

青じそ

マリーゴールド

ほとけのざ

タンポポ

ブルーベリー：おいしい

しいのみ：おいしい

オリーブ

朝顔：いろいろ遊べます

ヨウシュヤマゴボウ：色水、お絵描き、砂に色がつく

キンモクセイ

オシロイバナ：花で遊んだり、色水にしたり、種はつぶすと白い粉が出ておもしろいです。

ハルニレ：虫がいっぱいくるよ

紫陽花

おじぎそう：手で触ると反応があって楽しい

オシロイバナ：砂遊びのケーキのトッピング・色水

柑橘系

青じそ：食べられる 匂い 穂 種

ひまわり

生えっぱなしの草ゾーン

マリーゴールド：染めるもよし、色水遊びもよし、その中でもそれ自体で絵を描くのが好きです
ほとけの座：身近にあって見た目もかわいく蜜も吸えるので、子どもが嬉しそうに取ってくる。
ガマズミ：色水遊びに使える
ブラックベリー：実が大きくておいしい
オリーブ：成長が遅いがオイルにつけたりつぶしてあそべます
かつらのき